

平成29年3月2日

運営に関する計画

最終評価全体会

大阪市立鷺洲小学校

◆学校運営の指針「基本となる考え方」
《心豊かに力強く生き抜き未来を切りひらく力の育成》

学校教育目標

心豊かな子どもを育てる

重点目標

めざす子ども像

知
知的好奇心
のある子

情
豊かな心と
思いやりのある子

意
主体性のある子

体
健康で元気な子

一人一人を大切にする“人権教育”を基盤とした学習活動の展開

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【児童の全体的な状況】

- ・素直で人懐っこい子どもが多く、安定した生活態度が見られる。
- ・与えられた課題に対して粘り強く取り組む子どもが多い。
- ・反面、身の回りの事象から問題を発見したり、自分の意見を主張したりする意欲や積極的・主体的な面が弱く、知的好奇心や主体性を育む必要がある。

【教科に関して】

- ・全国学力学習状況調査では、国語・算数とも全国正答率をやや上回った。
- ・通塾率が高く、学力の二極化が顕著である。低学力の子どもを引き上げる必要があり、学習形態や指導法を工夫して、学びの成果をあげる必要がある。

【教員の研修】

- ・研究テーマに沿って指導法を統一し研究授業と討議会に取り組んだほか、先進的な研究校の視察や、講師の招へい等、授業力アップをめざしてきた。その結果、教員自身が「指導力の向上につながった」と実感することができた。
- ・授業に思考ツールを導入し、「自分の思いや考えを視覚化する工夫」「思考力・判断力・表現力を高める交流の場の工夫」を取り組んできた。論理的な思考力につながる言語活動の充実を今後も図っていく。
- ・経験の浅い教員が増える中、校内組織を見直し、きめ細かい支援体制をとって学校力のアップを目指す。

【地域連携に関して】

- ・家庭・地域と連携しながら生活指導の充実に取り組んだ結果、子どもの健全育成が実現している。
- ・家庭状況が安定している児童が多く、規範意識も高い。
- ・自分や友達には良いところがあると考える子どもが多く、学校での指導や家庭での教育の成果が出ている。

【視点 学力の向上】

習熟度別授業・少人数授業等に加えて、子どもが主体的・協働的に学ぶ場を工夫するなど、さらなる指導法の工夫改善を行うことにより、子どもに基礎的な学力を定着させ、「論理的思考力」や「学ぶ意欲の向上」を獲得させていきたい。その指標としては、平成27年度末の子どもアンケート・保護者アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」と答える割合が目標値に達したため、平成28年度は、「主体的な学び、協働的な学び」に重点を置いたアンケートを取り、肯定的にとらえる割合を10ポイント増やす。

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

本校の学校目標「心豊かな子どもを育てる」には、互いに認め助け合い共に学び育ち合う子どもの育成、集団の育成が不可欠である。互いの良さを認め合い育ち合う集団の育成に向けた教育を継承するとともに、平成28年度は、全学級で道徳の授業を公開し、道徳心・社会性の育成に努める。

(グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

体力づくり等、健康な生活習慣を身につけることができるよう、取り組んできた。平成27年度は、校内アンケートで「給食を残さず食べている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えがすべての学年で目標値を上回っており、指導の成果が表れたと考える。そこで、平成28年度は、「健康・体力の保持増進」について、課題が残った保健・体育に絞って取り組みを進めることにする。

(カリキュラム改革・ガバナンス改革)

【視点 研修の重点】

教員が指導法の工夫改善への取り組みを継続し自身の指導力向上を実感すること、その教育実践を公開し、適切な評価を得ることが、学校の活性化につながった。平成28年度も、全教員が「授業研究」をし、「指導力が向上した、研修が役に立ったと実感する教員の割合」80%以上をめざすとともに、研究実践の成果に対する他校の教員からの肯定的な感想・意見の割合を70%以上にする。

(マネジメント改革・カリキュラム改革)

【視点 学校・家庭・地域との連携】

本校は、中学校区単位で子どもたちの健全育成に地域総がかりで取り組んできた歴史がある。平成28年度も、幼小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。関係機関との連携や地域、保護者、ボランティアの協力を得て、教育活動をさらに充実させる。

教育活動の充実に関して、保護者アンケートを取り、回収率を70%以上にするとともに、取り組みに対する肯定的な回答を80%以上にする。

(マネジメント改革・ガバナンス改革)

2 目標達成に向けた年度目標

年度目標

【視点 学力の向上】

- ・昨年度までの実践の成果を継承し、全学年で「子どもが主体的・協働的に学ぶ場」を工夫する。
(マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革)
- ・教育活動全体を通して「言語活動の充実」に取り組み、論理的思考力をはぐくむ。
(マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)
- ・学校図書館の開館時間を増やしたり、読書スペースを広げたりして、読書に親しむ子どもを増やす。
(マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・子どものよい考え方や意見（授業中）、よい行い（遊びや縦割り班活動、登校班など日常の生活の中）を積極的に取り上げることで、子どもが互いの良さを認め育ちあう集団を育てる。
(グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)
- ・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に全学年、学期に1回以上取り組む。
(グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)
- ・道徳の授業や学級指導、毎日の登校指導などを通して自主的・自律的な生活態度を身につけ、進んで挨拶できる子どもを育てる。
(カリキュラム改革・グローバル化改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・自らの健康に関心をもつ子どもを育てるために、保健・体育の年間計画にそって、全学級で実践を進める。
(カリキュラム改革・マネジメント改革)

【視点 研修の重点】

- ・校内研修を活性化し、外部講師の招へいや、先進的に研究実践に取り組む学校園への積極的な参加、各教科・領域の主任が講師となった校内研修を行うことで教職員の授業力をアップする。
(マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革)
- ・初任者研修に対する組織的対応と充実を図ることで、学校全体の授業力向上を図る。
(マネジメント改革・学校サポート改革)
- ・研究実践に対する外部からの適切な評価を得るために、研究の成果や課題を積極的に公表する。
(マネジメント改革・カリキュラム改革)

【視点 学校・家庭・地域との連携】

- ・学校の教育実践を発信するとともに、行事アンケートを取り、地域、保護者の意見を学校運営に活かす。
(ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)
- ・保幼小中の校種間連携を継続し、保幼小中一貫した「学び」を推進する。
(ガバナンス改革・カリキュラム改革)
- ・次世代を創造する鷺洲の子どもの育成を目指して、昨年度末にプラッシュアップしてきた学校の運営方針を実行に移す。
(ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ・昨年度までの実践の成果を継承し、全学年で「子どもが主体的・協働的に学ぶ場」を工夫する。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革)	B
・教育活動全体を通して「言語活動の充実」に取り組み、論理的思考力をはぐくむ。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)	
・学校図書館の開館時間を増やしたり、読書スペースを広げたりして、読書に親しむ子どもを増やす。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学力向上・個に応じた指導】 ・昨年度までの実践の成果を継承し、全学年で「子どもが主体的・協働的に学ぶ場」を工夫する。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革)	A
指標 28年度末の学校アンケートにおいて「自分で課題（問題）を見つけ、その解決に向けて情報を集め、話し合うなどして活動に取り組んできましたか」という問い合わせに対して肯定的に答える割合を10ポイント増やす。H27=79%（児） ①89%（児）→②86%（児）	
取組内容②【言語活動の充実・論理的思考力の育成】 教科の特性や、子どもの発達段階に応じて思考ツールやICT機器等を取り入れることにより、言語活動を一層活性化させる。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)	B
指標 全国学力学習状況調査や学校アンケートにおいて、「自分の考えがもてた」「自分の考えをもとに話し合えた」と答える子どもの割合を80%以上にする。（H27は70%） 「自分の考えがもてた」→②86%（児） 「自分の考えをもとに話し合えた」→②64%（児）	
取組内容③【学校図書館の活性化】 学校図書館の開館時間を増やしたり、読書スペースを広げたりして、読書に親しむ子どもを増やす。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)	B
指標 全国学力学習状況調査や学校アンケートの中で「読書が好き」と答える割合を80%以上にする。 ②85%（児）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①授業において、主体的・協働的に学びあう場を工夫したことにより、児童アンケートで肯定的回答をした児童が、昨年79パーセントから本年度は89%となり、10ポイント増加した。目標値に達した。
②思考ツールを活用したことにより、平成27年度は70%の児童が「自分の考えをもって話し合えた」と回答していたが、平成28年度は86%が肯定的に回答している。ICT機器の活用についても現在進めており、目標値に達した。
③図書館開放時間の増加、ボランティア、図書支援員の活動等により、「読書が好き」と回答した児童は、全体の85%であり、読書に親しむ子が増えた。
次年度への改善点
① 思考スキルと思考ツールの関連を明らかにし、さらに活用を進める。 ② タブレット等が活用できる授業場面を増やす ③ 読書だけでなく調べ学習など学校図書館をさらに幅広く活用するよう計画する。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どものよい考え方や意見（授業中）、よい行い（遊びや縦割り班活動、登校班など日常の生活の中）を積極的に取り上げることで、子どもが互いの良さを認め育ちあう集団を育てる。 <p>（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に全学年、学期に1回以上取り組む。 <p>（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業や学級指導、毎日の登校指導などを通して自主的・自律的な生活態度を身に付け、進んで挨拶できる子どもを育てる。 <p>（カリキュラム改革・グローバル化改革）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【人権を尊重する教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どものよい考え方や意見（授業中）、よい行い（遊びや縦割り班活動、登校班など日常の生活の中）を積極的に取り上げることで、子どもが互いの良さを認め育ちあう集団を育てる。 <p>（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）</p> <p>指標 学校アンケートで「自分にはよいところがある」「どの友達にもよいところがある」と答える子どもの割合を70%以上にする。「自分には…」→②87%（児）「友だちにも…」→②95%（児）</p>	A
<p>取組内容②【豊かな心を育む教育活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に全学年、学期に1回以上取り組む。 <p>（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）</p> <p>指標 各学年で地域を活用した教育活動を学期に1回以上取り組むことで「鶯洲の町（福島区）が好き」と答える子どもの割合を75%以上にする。 ②95%（児）</p>	B
<p>取組内容③【社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業や学級指導、毎日の登校指導などを通して自主的・自律的な生活態度を身に付け、進んで挨拶できる子どもを育てる。 <p>（カリキュラム改革・グローバル化改革）</p> <p>指標 学校アンケートにおいて、「相手より先に挨拶している（自分から挨拶している）」「相手に伝わるように挨拶している」との答える割合を70%以上にする。 ②82%（児）</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「今日のキラリさん」を掲示するなど、学年・学級に応じた取り組みにより、子ども同士でよさを認め合う集団づくりができており、結果して「自分に良いところがある」「友達にも良いところがある」と答える児童の割合がほぼ90%に達し、目標値を大きく上回った。</p> <p>② 各学年で、町の人材や文化を教材として取りあげたり、町の方にゲストティーチャーとして学習に参加したりした結果、町の良さに気付いた児童が95%に達した。</p> <p>③ 登校指導・全校朝会などを通して、「相手に伝わるあいさつの仕方」を指導した結果、82%の児童が「挨拶できている」と答えた。しかしながら、高学年になるほど恥じらいが出て、声が小さくなったり、顔を伏せたりする姿が見られ、継続して指導する必要がある。</p>	
次年度への改善点	
<p>①自尊感情の醸成は、学ぶ意欲にもつながるので、これからも継続して指導していく。</p> <p>②カリキュラムに位置づいた取り組みは、学年により差がある。生活科・総合を中心として計画的・系統的に実践できるよう、カリキュラムを整備する必要がある。</p> <p>③子どもが「できている」と答える状況と、教職員や町の人が「できている」と感じる状況にはまだ、差がある。挨拶することの意味や、挨拶することで生まれる「心地よさ・すがすがしさ」を実感させ、いつでも、どこでも、誰にでも気持ちの良いあいさつができる子どもを育てる指導を継続する。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの健康に関心をもつ子どもを育てるために、保健・体育の年間計画にそって、全学級で実践を進める。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革・マネジメント改革)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【健康に関する現代的課題への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「うがいの励行」に焦点を当て、「給食の準備中にうがいをする」よう環境設定を行い、感染症予防に対する意識を向上させる。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>指標 平成28年度の校内アンケートで、給食前に「うがいを行っている」と答える児童の割合を80%以上にする。 ②86% (児)</p>	A
<p>取組内容②【子どもの体力向上への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査を全学年で実施するとともに、運動場で遊べる時間を増やすことで、走力の向上を図る。 (カリキュラム改革・マネジメント改革) <p>指標 「50メートル走のタイムが速くなった」と答える児童の割合を、80%以上にする。 ①77% (児) →②70% (児)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①3学期末アンケート調査「給食前にうがいをしていますか」の項目は、肯定的評価が86%であった。これは、児童に「コップを持参する」よう指導した結果、意識が高まったものと考える。また、音楽を流したり、ポスターを掲示するなど、環境整備を進めたり、チェックシートを配布して自己評価させたりしたことにより、子どもたち自身の感染症予防に対する意識を向上させることができたと考えている。</p> <p>②3学期末アンケート調査「50メートル走のタイムが速くなりましたか」の項目は肯定的評価が77%であり、児童自身に体力・運動能力が向上しているという意識が育っていない。本年度は、校時表を変更し、20分の休憩時間を取り、外で遊ぶ子どもたちが増えたようにも感じる。</p>
次年度への改善点
<p>①感染症予防の意識を高めるためには、現在行っている「うがい」の励行については継続して取り組んでいきたい。</p> <p>次年度に向けての取り組みとして、児童数が増加し、怪我も増えていることから、「児童、教職員のけがや安全に対する意識向上」を進める必要があるのではないかという話し合いがもたれた。例として、「足育」の取り組みも検討してみたい。</p> <p>②体力・運動能力の向上は、本校の課題である。</p> <p>運動に親しめる環境整備のほか、体力向上に向けたプログラムも必要ではないかという声があった。体育学習を系統的に指導できるよう年間計画を見直すことと、体力・筋力を高める運動を意識的に取り入れる、あるいは、「体を動かすことが好き」と答える子どもが増えるような取り組みを進める必要がある。</p>

年度目標	達成状況
<p>【視点 研修の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を活性化し、外部講師の招へいや、先進的に研究実践に取り組む学校園への積極的な参加、各教科・領域の主任が講師となった校内研修を行うことで教職員の授業力をアップする。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革) ・初任者研修に対する組織的対応と充実を図ることで、学校全体の授業力向上を図る。 (マネジメント改革・学校サポート改革) ・研究実践の成果を積極的に発信することで、教育実践をさらに活性化させる。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革) 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【授業研究会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による研究授業を実施するとともに、研究の充実のため、外部講師を招へいや先進的な研究開発校の視察、各教科・領域の主任が講師となった研修を通して授業力を向上させる。 (マネジメント改革・カリキュラム改革) <p>指標 平成28年度も「全員研究授業」、「外部講師の招へい」、「先進的な研究開発校の視察」、「各教科・領域の主任が講師となった研修」等を通じて、教員の80%が、「自分自身の指導力向上に役立った」と答える研究活動をめざす。 ②87%（教員）</p>	A
<p>取組内容②【初任者研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の授業研究や、メンターを中心とした研修会などを実施することで、組織的に初任者の育成に取り組む。 (マネジメント改革・学校サポート改革) <p>指標 保護者や児童アンケートで、「学校に行くのが楽しい」「授業が分かりやすい」と肯定的に答える割合を80%以上にする。「楽しい」→②95%（児） 「わかりやすい」→②92%（児）</p>	A
<p>取組内容③【教育実践のイノベーションにつながる研究の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究実践の成果を積極的に発信することで、教育実践をさらに活性化させる。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革) <p>指標 「研究の内容がよくわかった」「参考にしたい」など、外部からの肯定的な評価を80%以上にする。「よくわかった」→97%（外部） 「参考にしたい」→93%（外部）</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①年間計画に従って全員が研究授業を実施することができた。また、研究の充実・授業力向上のために講師を招聘して研修を重ねた結果、「授業力が向上した」とアンケートに答えた教員が87%になった。校長から見ても教員の授業へ向かう意欲や技術は高まっており、全市に誇れる状況である。</p> <p>②初任者研修については、学期に1回の研修授業だけでなく、日常的に学年や初任者担当がかかわったことにより、担任としての意識や指導技術に向上が見られた。加えて、メンターを中心とした研修会で授業や学級経営について話し合い、初任者同士の高め合いができた。学校全体のアンケート結果でも、高い評価を得ており目標値に十分達している。</p> <p>③福島区教員研究発表やがんばる先生事業で授業公開や研究成果を発信したことで研究の成果が整理された。参加者からの高い評価も得ており、目標値に十分達している。</p>	
次年度への改善点	
<p>①指導案検討、授業、授業検討会などの設定の仕方を工夫し、より効果的に進める必要がある。</p> <p>②メンターを中心とした交流は、日程調整も含めて、無理なく進められるようにする。初任者研修については、指導力向上という意味から、先輩教諭からの知識・技術の伝達研修なども取り入れるようにする。</p> <p>③思考ツールやループリックの設定の仕方など、残された課題について、より深めるための研修が必要である。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【視点 学校・家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育実践を発信するとともに、行事アンケートを取り、地域、保護者の意見を学校運営に活かす。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) ・保幼小中の校種間連携を継続し、保幼小中一貫した「学び」を推進する。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革) ・次世代を創造する鷺洲の子どもの育成を目指して、昨年度末にブラッシュアップしてきた学校の運営方針を実行に移す。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【開かれた学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の学校便りや学年便り、行事ごとのHP更新等を通して積極的な情報発信を行うとともに、行事アンケートを取り、地域、保護者の意見を学校運営に活かす。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) 	A
<p>指標 行事アンケートの回収率70%を目指すとともに、実施した行事等に対する肯定的な意見を80%以上にする。 ②94%（保）</p>	
<p>取組内容②【小中一貫した教育の推進、幼児教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する幼稚園・保育所・中学校と年間通して計画的に交流学習を進め、保幼小中一貫した「学び」を推進する。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革) 	B
<p>指標 学校行事や研究活動への相互参加を通して、校種間連携について考える機会を計画的に設け、「他校種への理解が深まった」と答える教職員の割合を70%以上にする。 ②91%（教）</p>	
<p>取組内容③【次世代を生きる子どもを育成する学校運営】</p> <p>ブラッシュアップした教育活動や、組織を効果的に活用するなど、目的と方法を明確にした学校運営を目指す。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)</p>	A
<p>指標 学校関係者によるアンケートを取り、平成28年度の取組に対する、肯定的な意見の割合を80%以上にする。 ②94%（保）</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①HP作成用マニュアルを作り、各学年がUPすることでHPの更新回数が前年度より増えた。また、行事ごとにアンケートを取り、94%の回収率を得た。保護者の声を集約した結果、肯定的な回答が多くを占めた。</p> <p>②生活科や夙上げ、避難訓練など貫江田幼稚園との交流回数は、前年度よりも増えた。地域の保育園との交流も増え、園の教員による給食試食会など保幼小の円滑な接続に向けた取り組みは進んでいる。</p> <p>③思考ツール・ループリックを用いた研究活動や、豊かな心を育むための地域学習・道徳教育の充実等を柱とした新たな取り組み、校時表や学校行事の変更などに対して、肯定的な回答が94%を占めた。</p>
次年度への改善点
<p>①HPの更新回数は増えているが、閲覧件数に変化はない。HPは必要なときに閲覧するという傾向が強いいためだと思われる。指標の設け方、傾向の読み取り方を工夫する。</p> <p>②中学校と交流を進めるとともに、保幼小中の内で、学力向上や体力向上に関わるような連携がまだ十分ではない。教頭・教務・各担当を中心にして連携を深めたい。</p> <p>③学校の取り組みに対しては、肯定的な回答が多く、目標値に達している。教育活動についてはカリキュラムを整備することで無駄をなくし、教職員がゆとりをもって子どもと接することができる時間を確保するよう努める。</p>

